

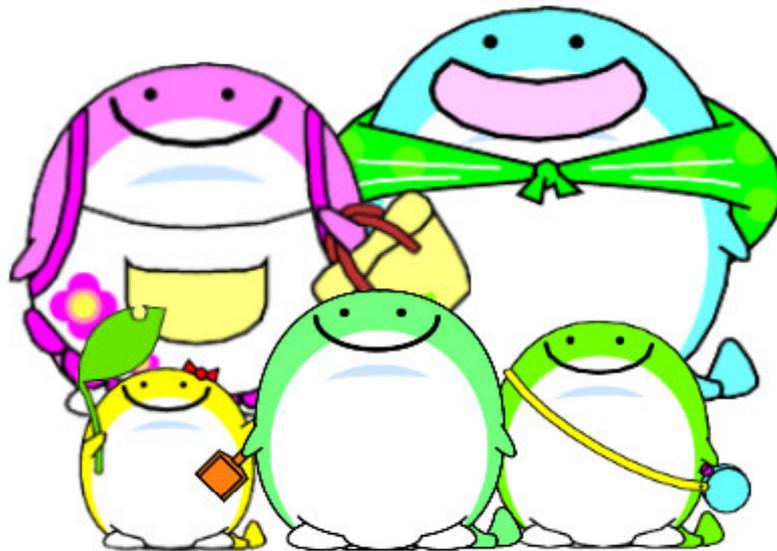
ごみゼロ県民・事業者セミナー

～子どもたちと学ぶ未来のための環境学習～

本日は、ようこそお越しくございました。

「ごみゼロ社会」を実現するためには、次代を担う子どもたちをはじめ、あらゆる年代の県民のみなさんの行動が必要です。

今、大人のできること、子どものできることを一緒に学び、考えてみませんか。



日時 平成20年12月7日（日）

13:30～16:00（受付 13:00～）

場所 三重県総合文化センター
レセプションルーム

（津市一身田上津部田1234）

主催 三重県

本日のプログラム

【開会あいさつ】（13：30～13：35）

【講演】（13：35～14：40）

テーマ 「未来の子ども達に美しい自然を残したい」

講師 百瀬 則子（ももせ のりこ）氏

ユニー株式会社環境社会貢献部長

プロフィール

1980年ユニー株式会社入社。関東本部（当時：東京本部）日吉店衣料課配属。

その後、人事部教育訓練課、経営政策室、食品本部商品開発室。

2003年アピタ港店など4店舗で副店長などを経て現職。

環境及び社会貢献、特に「子供達への環境学習」、「商品やサービスを通じて消費者に啓蒙活動」を進めている。

現在、日本チェーンストア協会環境委員・あいち環境学習推進協議会委員。

2005年に農林省 食料・農業・農村政策審議会専門委員として、2006年に環境省中央環境審議会専門委員として、食品リサイクル法改正について審議に加わった。

【休憩】（14：40～14：55）

【取組発表】（14：55～15：15）

発表者：鈴鹿市立天名小学校

学校での環境・エコ活動について、3年生の「省エネ委員会」の児童のみなさんと担当の先生から紹介していただきます。

【取組発表】（15：15～15：35）

発表者：三重県立桑名北高等学校

学校における環境取組・ロハス活動について、生徒のみなさんと先生から紹介していただきます。

【意見交換】（15：35～16：00）

【閉会】（16：00）

みんなでめざそう “ごみゼロ社会”

風呂敷っていろいろ使えて便利だよ♪

マイバックを持ってお買い物♪

お出かけにはマイボトル♪



ごみゼロ県民・事業者セミナー ～子どもたちと学ぶ未来のための環境学習～

日時：平成20年12月7日（日）13：30～16：00

場所：三重県総合文化センター レセプションルーム

（司会）

本日のセミナーでございますが、お手元のプログラムにもございますとおり、このあとユニー株式会社の百瀬様にご講演いただき、休憩を挟みました後に鈴鹿市立天名小学校と三重県立桑名北高等学校の方からお話をいただきます。

それでは、只今よりユニー株式会社事業本部環境社会貢献部長の百瀬則子様より『未来の子ども達に美しい自然を残したい』と題しましてご講演をいただきます。

百瀬様は2003年に環境社会貢献部長の職に就かれ、環境及び社会貢献、特に子どもたちへの環境学習と、商品やサービスを通じて消費者に啓蒙活動を行うことを進めてみえます。

百瀬様、よろしく申し上げます。

【講演】

講演：「未来の子ども達に美しい自然を残したい」

講師：百瀬則子 氏 ユニー株式会社業務本部環境社会貢献部長

（百瀬）

皆さん、こんにちは。私は、ユニー株式会社環境社会貢献部の百瀬と申します。

皆様方のお住まいになっている津市にはユニーのお店はないのですが、桑名市や鈴鹿市、四日市市、それから松阪市には「アピタ」という名前でお店を出しています。それから、最近では「ユーストア」という会社と一緒にになりましたので、2月から「ピアゴ」という名前で三重県内各地に店舗が広がります。

皆様方にお配りした資料の中で、『環境レポート2008』と、それからお子様版で、小さい、『こども環境レポート』というのがあると思います。それをちょっと見ていただきながらお話ができればと思います。

《ごみゼロHPでは、環境レポート2008から抜粋した講演資料を掲載しています》

お店が1軒できると、周りの環境にものすごく迷惑をかけます。例えばお店が1軒できました。お店はいつでも電気が点けばなしです。いつも明るいですよ。そして冷暖房はずっとかけっぱなしです。その上、お家の冷蔵庫、冷凍庫のドアを開けばなしだ

ったらお母さんに叱られちゃいますよね。でも、お店では冷蔵庫、冷凍庫も開けっぱなしです。そのようにたくさんのエネルギーを使った建物でお店は営業しています。それにお水もいっぱい使います。皆さんがお手洗いを使ったり、いろんな物を洗ったりします。そうすると、あんまりきれいじゃないお水が川に流れて、川や海を汚してしまうことも少しあります。それに皆さん、スーパーに行く時に車に乗って行きませんか。そうすると、車はガソリンを使うし、排気ガスを出します。そしてまたごみだってたくさん出しているんです。

そのように周りの環境にいろんな影響や、ご迷惑をかけて、私たちは商売をしているわけで、それをできるだけ少なくしようという努力、それから自分たちだけでもできないので、お客様と一緒にやっていきたいという、そういう気持ちを持って私たちは仕事をしています。

ユニー株式会社は、「エコ・ファーストの約束」というお約束をしました。この約束はいっぱいあります。今日お話するのは、ごみを少なくして、そしてCO₂の少ない低炭素社会と言うのですが、それを子どもたちに残してやるためには何をしたらいいのかということについて、企業は、企業だけではなくてNPOや市民の方や学校の先生や生徒さん、お客様、そういった周りの皆様方と一緒にやっていくということをお話します。その中でも私たちは特に大切な約束を三つしています。

一つは、「食品リサイクルをやっていきましょう」ということ。今、日本の食べ物は40%しか自分たちで作っていないのですね。60%は輸入しているのです。それなのに、どれだけたくさんの食品が捨てられているのでしょうか。

ここで質問です。アピタ桑名店とかアピタ鈴鹿店というお店が皆さん方の近所にあると思いますが、あれぐらいのお店で1日に食品のごみ、食品廃棄物はどのくらい出ていると思いますか？①200kg ぐらい。②400kg ぐらい、③800kg ぐらい。さあ、どれでしょうか。実は800kg ぐらい出ているのですね。800kg と言うとすごいでしょ。1 t が1,000kg ですから、それより少し少ないぐらいです。

なぜこんな食品のごみが出るのでしょうか。例えば市場からお魚を買ってきます。それをお刺身にして販売する時に、食べられない頭とか尻尾とか骨を外してしまいます。それを魚のアラと言うんですが、それが1日に200kg ぐらい出ます。大きなスーパーの中では、工場を持っていて、いくつかの店の分をまとめてお刺身を作って、お店では売るだけというところがあるんですが、ユニーのお店、アピタでは必ずお店の中で調理をすることにな

っています。ですから、1本の大きなカツオですとか、たまにはマグロも1本で入荷します。それをさばいてお刺身にしたり切り身にして、皆さん方に販売しているんですが、食べられなかった分はアラとして売る時もありますが、ほとんどそれは廃棄物になります。それからキャベツだって外側の葉っぱを取ります。ブロッコリーも切ったりします。そういったお客様にお出しする時に出る生ごみというのが3分の2ぐらい、残りは飲食店での食べ残しだったり、売れると思って作った食品の売れ残りだったりするわけです。それを捨てることなくリサイクルしましょうというのが約束の一つです。

それから2番目には、「お客様と一緒に進める」ということで、これは『環境レポート』の5ページ、6ページ（資料 P.1~3）に載っています。「お客様と一緒に」というのは、特にお客様が私どものところで買い物して下さって、それで家に帰った時にごみになってしまう物がたくさんありますよね。レジ袋もそうです。それからいろんな包装資材、箱だとか袋だとか、みんな中身を抜いてしまったらごみになってしまいます。これをできるだけ少なくしましょう。お客様と一緒にごみを減らして循環型社会を作ると言うことです。

3番目には、「地球温暖化」の問題。重要な問題なので、3番目に書いてあるのはちょっと順序が違うかも知れませんが、どうやったら地球温暖化に対して私たちが取り組めるのかということ。一番大切なのは、一番最初に言いましたように、お店は建物としてもものすごくエネルギーを使っていますから、それを何とかしましょう。それから、日本各地からいろんな商品がトラックに乗ってやってきます。その輸送に関するエネルギーを何とか少なくしましょう。

そして、ここに書いてありますが、もっと大切なことは、お客様に販売する物（商品）、それが作られる時、それから売る時に、できるだけ、材料・エネルギーを使わない、CO₂の発生を抑えた商品を販売することによってCO₂を削減しましょう。例えば木を切って作ったトイレットペーパーを使わなくてもいいですよ。みんなが集めてきた新聞紙とか使わなくなった紙をもう一回使って作ったトイレットペーパーでいいでしょう。皆さん、お店に牛乳パックを持って来てくれますよね。あの牛乳パックをトイレットペーパーにしたものを使えば、牛乳パックとして捨ててしまわないで、もう一回新しい製品というものに生まれ変わって、私たちが使う。そのほうがCO₂の発生も抑えられるし、木も切らなくて済む。そういう商品をお店の中でたくさん揃えてそれを買っていただきましょう。そういうことについてお約束をしています。

その中で、これからお話するのは、「ごみ」ということをもう一回見直してみようとい

うことです。先ほどお話した生ごみとか、容器包装以外に、私たちが出す、お店として出てしまうごみの中に、商品が入ってくる時の段ボールだとか発泡スチロールなんかがあります。この「1 (ユニーに入ってくるごみ)」と書いてあるところ (資料 P. 4) なのですが、例えば洋服だとかお菓子、それからペットボトルのジュースなんかはみんな段ボールに入ってきます。それからお魚だとか野菜などの冷蔵保管しなければいけない物は発泡スチロールに入ってきます。これらは使い終わってしまったらみんなごみになってしまいます。ですが、できるだけリサイクルしています。

それから、これは生ごみも入るんですが、お客様に商品を販売する時に出るごみがあります。さっきの魚の尻尾とかキャベツの葉っぱ、それ以外にも段ボールの中でもう一回袋に入っていたり、ビニールの紐で縛ってあったり、例えば靴を買いに行くと、箱に入った靴の中に紙が入っていたり、プラスチックの型が入っていたりしますよね。ああいう物はみな販売する時に出るごみになります。ですが、この1番と2番 (ユニーで発生するごみ) というのは、ユニーのお店の中、アピタのお店の中で一生懸命リサイクルしたり、分別して適正に処理したりしています。

その次に3番 (お客様が持ち帰るごみ)、これを何とかしなくちゃいけないんですね。例えばビールを買う時、必ずビンかアルミ缶に入っています。牛乳だって牛乳パックに入っていますね。お魚や肉を買われると、スーパーではトレイやラップに包まれて売っています。だから、商品を買って帰るとともに、皆様方はお家にごみを持ち帰っていることになるわけです。今、容器包装の廃棄物 (ごみ) の中で、家庭から出る量が60%だと言われています。これを何とかしなくちゃいけない。この3つについて私たちは一生懸命減らそうという努力をするとともに、この1番 (店に商品が集荷するときの包装資材・・・ダンボールとか発泡スチロールなど)、2番 (販売するときに発生する、生ゴミとかビニール袋やテープなど) 以外のこの部分について、特にこれはお客様と一緒に進めないとできないのですね。お客様が「レジ袋は要りません」と言ってくれば、私たちは「はい、分かりました」と言ってレジ袋をお出ししませんけれども、お客様がこういうものが欲しい (持ち帰るための包装資材やラッピング) と言われた時、サービスだと考えて渡すところがあります。ですから、この部分について特にお客様と一緒に進めなければいけないと考えています。

廃棄物の排出量を計っていますが、ユニー・アピタでは、すべての店にこの秤が入っています。この秤については25、26ページ (資料 P. 4~6) に書いてあるのですが、お店から出るごみはすべて、どこの売り場から出たか (排出場所) というのをバーコードで管理

します。お魚屋さん、肉屋さん、ラーメン屋さん、パン屋さん、みんなバーコードを持っています。そしてこの17分類に分けて分別してもらいます。で、秤のところに来ると、自分の売り場のバーコードをピッとやって、例えば肉屋さん、生ごみ、ピツ、ピツとやると、ここの秤のところ「肉屋・精肉・生ごみ」と出ます。そして分類別の種類のバーコードをスキャンして、それからこの台に置きますと、「精肉・生ごみ・何 kg」という形で表示されます。この表示されたものがここからシールが出てきて、そのシールを貼って、それを廃棄物庫に入れるというのがルールになっています。ですから、すべての店のすべての売り場で何がどのくらい出てきたかというのは全部調べられています。それが毎月、毎月、「はい、あなたの売り場はごみが何 kg ですよ、廃棄物は何 kg ですよ、そのうち生ごみは何 kg ですよ、紙は何 kg ですよ」と、全部分かります。この結果を売り場（排出場所）に、全部お渡ししています。

そうやって一生懸命量って、分別して計っていますと、この排出総量というのがだんだん減ってくるんです。毎年、毎年、だいたい3%から5%ぐらい廃棄物の量が減りました。やっぱり体重と一緒に減ります。量ると減るんです。今までずっと「何とか減らそうね」と言っても、「どれだけ減ったのかしらとか、どのくらい出たのかしら」ということが分からなかった時には見なかったことにしていた方たちも、実際に「あなたのところは先月よりも10kg 多いですよ」とか、「あなたのところは他の店より何 kg 多いですよ」と言われると、ドキッとしますね。何で多いんだろうと。「もしかしたら、この間ちょっと仕入れすぎて捨てちゃったのかも知れない」とか、あと、「これは生ごみなんだからもっと水を絞って出せばよかった」とか、増えた原因を一生懸命考えるんです。考えて何とか減らそうとするんです。

この分別の作業はすごく多いように見えるんですが、この分別はリサイクルするための分別です。ごみというのは、要らなくなって燃やされたり埋め立てられたりする物ですよ。もう一回使えるものは「ごみ」とは言いません。それは「再生資源」と言います。ですから、ここにあるように（資料 P.5）一般可燃ごみと書いてあるのは、これは燃やすしかないんですね。例えばスーパーマーケットにごみ箱があったりします。お客様が鼻をかんだティッシュとか、アイスクリームを食べた残りの棒だとか、そういう物をボンボン捨てて行ってしまう。赤ちゃんの紙おむつも捨てられたりします。そういう物はもうそこから分けてリサイクルするのは難しいんです。

ですが、ここに書いてある食品ごみの中の魚のアラ、それから天かすとか生ごみ（野菜

の調理クズや売れ残り、食べ残しなど)、そういうものはリサイクルしています。それからビンとか缶とか段ボール、紙、そういうものもリサイクルして、みんな次の製品に戻したりしています。ですから、廃棄物の中でどれだけ分別して、どれだけ次の命を与えられて製品になって使われるかというのは、ここで、お店の中で一生懸命分けてリサイクルするという活動でやっています。

だいたいこれが（資料 P.6）平均的な店です。商品が入ってくる段ボールとか、それからコピー用紙だとか、そういうもう一回リサイクルできる紙がだいたい50%、残りの廃棄物の中の食品系が半分ぐらい。まずこのあたりについてちょっとご説明をしたいと思います。

食品リサイクル法という法律が2001年に制定されました。その時には、食品の廃棄物を何kgですかとまず自分たちで調べてくださいねと。そのうちの20%をリサイクルするか、減量するかしてくださいねという法律だったんですが、その時に結構機械で肥料にしましようとか飼料にしましようとか、そういう機械がたくさん出たんです。

ところが、例えば1日や2日で機械に入れたからと言って堆肥ができるわけじゃないし、それで使えるような物ができるとはユニーは考えなかったんですね。また、その時には酵素か何かを入れて、水で溶いて流してしましようというような機械も出てきましたが、やっぱり排水が汚れてしまうんじゃないかと心配になりました。ですから、リサイクルするにしても、安全であって、そして周りの環境を汚さないようにしましよう。それから、熱を加えたりして電気をいっぱい使うということは反対に環境によくないので、できれば省エネになるものをしましようということを決めました。

次に、よく食品のスーパーで「堆肥を作っています」というところもあるんですが、その堆肥は誰が使っているんでしょうか。堆肥を作るところまでは結構みんなやっているんですが、できた堆肥をちゃんと使って野菜や果物を作って、お店でもう一回売らなかつたら、それはちょっと無責任だと思いました。だって、「食品生ごみをあげるから堆肥に使ってね」と言って使ってもらって、ちゃんと野菜になって戻ってくるというのであれば、グルグル回っているリサイクルですが、「はい、使ってね」と渡しただけだと、その後どうなっているか分かりませんよね。ですから、私たちは、必ず堆肥にしたり、餌にしたりしたら、自分のお店でもう一回売れる物にしてもらいませうと。ちゃんとリサイクルは回しませうということを決めました。

それから、あまりお金がかかることをやってしまうと、スーパーの売り上げが落ちた時

に「止めちゃおうかな」と思われますと大変ですから、経費もできるだけ抑えましょうと。実は、ごみってタダじゃないでしょう。知っていますか？ごみって、タダで処理できないんですよ。皆さん方の家庭から出るごみは、多分市や町が持って行ってくれますよね。税金でやっています。ですが、お店屋さんから出るごみというのも「一般廃棄物」と言いついて、普通のお家のごみと同じように燃やしたり埋めたりするんですが、これは全部コスト、お金がかかっているんです。

ちょっと三重県の料金は分からないんですが、名古屋市ですと「一般廃棄物の処理料金」は1kg20円です。1kg20円を市にお支払いして、燃やしてもらったり埋めてもらったりしています。それと配送料、それを運ぶ料金がほしい15円から17円ぐらいです。そうすると、ごみ1kgに35円から37円ぐらいお支払いしているんです。

生ごみがほしい800kg出るお店だったら、毎日燃やしてしまうごみというのは同じぐらい出るわけですから、800kgぐらい出ますね。800kgで1kg約40円ぐらいかかったら、いくらになるでしょう？生ゴミだけでほしい3万円ぐらいにかかってしまいます。そうするとそれが30日間だったら100万円ぐらいかかってしまうんですね。ですから、ごみというのはお金がかかるんです。でも、リサイクルのほうがもっとお金がかかるんです。だけど、あんまりお金がかかると、お店がだんだん売れなくなったら止めちゃいたくなっちゃうので、ほしい経費的にもそういう市町村の処理費とそんなに変わらないぐらいでやっついこうと決めました。

それから、一番大切なことはずっとやり続けられること。途中で「堆肥がいらなくなかったから」とか、途中で「これはできなくなりました」と言われたら、またその次の日からせっかくリサイクルしようと思ってもごみになってしまいます。ですから、ずっと回し続けられるものにしましょうと決めました。

そして、そのために今やっているのが「収穫体験」です。アピタ鈴鹿店でもアピタ桑名店でも毎年やっているんですが、三功さんという津市久居にあるこういう食品リサイクルをやっているところに、小学校のお子さんとその保護者の方をお連れして、お芋を掘ったりトマトを取ったりしに行ったりしているんです。

これは（資料P.10、11）愛知県の例です。お店で出た魚だとか野菜のクズ、それを堆肥を作っているところに持って行って、堆肥を作ってもらっています。この堆肥を使って野菜を作ってもらっています。この野菜をお店で売っています。それをお客様に買っていただくという、こういう丸い環「食品リサイクルループ」というのを作っています。これを

私たちは商品として販売するとともに、それはどういう仕組みなのかというのを、お子さんたち、それからお父さん、お母さんたちと一緒に見学したりしています。

この食品リサイクルループですけれども、さっきも言いましたが、堆肥として生ごみをお渡しして終わってしまうというのは、この部分だけなんです。『静脈』と言います。廃棄物を処理する、もしくはリサイクルしてねという段階で終わります。でも、一番大切なのは、そのリサイクルでできた堆肥をちゃんと誰かが使って農作物にして、それをもう一回生ごみを廃棄物として出したお店で売るとい、そういう仕組みを作っていくことだと思っています。

ただ、この野菜があんまりおいしくなかったら売れないかも知れません。でも、私たちは、このお店から堆肥の材料として食品残渣、食品廃棄物を出す時に、必ず冷蔵保管をしています。例えば野菜に付いているテープ、ハウレン草なんかはテープで縛ってありますね。あれを全部外して、それから他の物が入らないように分別をきちっとして、それを専用の容器に入れて冷蔵庫で保管して、品質をちゃんとした状態で堆肥の業者さんにお渡ししています。だから、腐った物とかいろんな物が混じった物、それはごみですよ。それで作った堆肥は農家の方は使いたくないです。ですから、農家の方が喜んで使ってもらえるような堆肥を作ってもらっています。

そして、農家の方はその堆肥を使って、とても上手に野菜を作ってくさっています。ですから、ここでも野菜売り場ではほとんど完売です。完売するということは、またごみにならないということで、これも排出抑制でいいんですが、もう一つ、経済的にも成り立っているということです。私たちは市に廃棄物の処理料としてお金を払う代わりにリサイクルしてもらっています。このリサイクルの料金はちゃんと支払っています。ですが、これでできた堆肥は農家の方が買って使ってくれます。そして、私たちはできた野菜を全て（だいたい1～2割ぐらい高く）仕入れて、販売する時はだいたいいつも相場と同じぐらいで売っています。そういうようにきちっと経済的にも回るとい、このリサイクルの環なんです。

最初にこの野菜を売る時にすごく心配だったんです。売れるのかなと思って。だって、ここの売り場には「生ごみのリサイクルでできた堆肥で作った野菜です」と書いてあるんです。そういう物が売れるかどうか、とても心配だったんです。

ですが、一番最初の日に私が売り場に立っていましたら、ベビーカーを連れたお母さんが買い物に来たんですね。ちょうど一番前にイチゴが並べてあったんですが、そのイチゴ

を取って、「いい香りね」と言って、赤ちゃんにこうやって匂いをかがせているんです。いい香りなんです。なぜかと言うと、ユニーで売っていたイチゴはほとんどそれまでずっと九州の熊本から来ていたんです。ですから、熊本から2日間かかってトラックに乗ってきたイチゴを前の晩に冷やしてお店に出すというのが普通だったんです。

ところが、このリサイクルの環でできたのは、顔が見えると言うとおり、町内でできたイチゴなんです。ですから前の晩に農家の方が摘んだイチゴが次の朝出てくるんです。だからものすごく新鮮で、いい香りでおいしいんです。2日間トラックに乗ってきたイチゴというのは、もう匂いなんかしないんですね。それに完熟で持ってくると傷んでしまうので、やっぱり少し固いイチゴを持ってくるんです。こういう完熟で新鮮でおいしくて誰が作ったか分かっている、そういう野菜やイチゴ、そういう物を販売するというのが、私たちがこのごみを減らすということともう一つ、お客様に安全で安心な商品を販売するということにもなっています。だから、ごみを減らすということは大切なことですが、でももう一つ大事なのは、ごみをリサイクルしてちゃんとその環を回していくということで、お客様がそれを買ってくださって、それをちゃんと食べてくださるということだと思っています。

それを子どもたちに体験してもらっています。桑名とか鈴鹿のお店でも実施してきました。

最初に堆肥場に行きます。そうすると、ちょっと臭いんですね。土を作るバクテリアが生ごみを食べて、ガスが出ます。子どもたちには、「バクテリアがおならしているからちょっと臭いね」と言いながら入っていきます。本当に臭いんですよ。堆肥を作る時に発酵しますから、必ず匂いがあるんです。で、「触ってごらん」と言って、中に手を入れると熱いんです。バクテリアが発酵させている時は、温度が80℃ぐらいになったりします。だから卵を入れておくとゆで卵になったりするぐらい熱いです。

そうやって一緒に連れて行った子どもたちが、生ごみから堆肥になるというのを見てもらって、それを撒いた畑に行ってもらいます。そうすると、そこの中には堆肥で作った畑ですから化学肥料だとか農薬はあまり使っていません。だからコガネムシの幼虫がいたり、ミミズがいたり、カエルだっていたりします。それが芋堀りしたりトマトを取ったりする時に出てくるんですね。いつもだったらキャーとかワーッと叫ぶんですが、「あっ、本当にいろんなものがあるんだね」って。「私たちが食べて生きているということは、誰かの、何かの命をもらって食べて生きているんだよね。それから、この畑の中にミミズとかイモ

ムシだとかカエルは、この畑の作物と一緒に生きているんだよね。そういう自然で生きている作物というのは、自分たちにも安全でしょ」という話をします。

これは、最近よく聞く「生物多様性」ということにつながっていると思います。だから、お店の中でごみを減らす目的でやったことが、生物多様性だったり食育だったり、そして今すごく問題になっている、安全で安心で、由来が分かる、サステナビリティがちゃんとした野菜をお客様にお渡しできるということにもつながっているんです。だから、小売業でこれから先やっていかなければいけないということは、そういうことなのかなと思っています。

商品を通じて、サービスを通じて、お客様と一緒にごみを減らす。そしてリサイクルしたら商品としてもう一度それを買っていただく。そして、それがどうやってできたのかというのを次世代の子どもたちに見てもらおうということが、私たちがやっていく役目じゃないかなと思っています。

これは、(資料 P. 14) 津市久居にある三功さんという、そういう廃棄物を処理する業者さんなんですが、堆肥場を持って、それから農業もやっています。多分今度の春も、鈴鹿店でも四日市店でも桑名店でも松阪店でも募集すると思いますので、お子様とお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、参加してみてください。

それ以外にもユニーでは環境学習をやっているんですが、その中で二つ目の容器包装の見直しということをやっています。これにつきましては、11 ページ (資料 P. 22) に出ています。さっき言いました家庭から発生するごみの 60% が容器包装です。この容器包装を減らすためにはどうしたらいいかということなんですが、一つは「要らない物をもらわない生活」、レジ袋もそうだと思います。例えばビールを買いたくても、手では持って帰れません。でも、お買い物した物を持って帰るのに別にレジ袋がなくても大丈夫ですよ。カゴがあったり段ボールがあったり、風呂敷があったりします。ですから、「使わなくてもいい物は使わないことをやっていきましょう」と。

1989 年からユニー・アピタでは「ノーレジ袋キャンペーン」というのをやっていました。ところが、全然参加者がいなかったんです。2001 年、私が最初にこの部署に来た時に、100 人のうち 3 人でした、「レジ袋はいいですよ」と言ってくださる方は、1 日中レジに立っていても、誰も「いいです」と言ってくださらないんです。これはどうしたんだろうと思って調べました。

そうしたら、「だって、入れて帰る物がないから」と。そうなのかと。だからその年から

「いいです」と言われるとスタンプを押して行って、スタンプ 20 個になったらマイバッグを差し上げますというキャンペーンを始めました。それでようやく 100 人のうち 5 人になったんです。でも、ずっと進まなかったんです。

そして、2005、2006 年ぐらいになった時に、世の中の話題に盛んに地球温暖化の話が出てきました。地球温暖化と言えばCO₂、レジ袋もそうなんだということが皆さんの中に広まって行って、初めて 10%を超えました。そして 2007 年にユニーのお店では初めて横浜市内のお店でレジ袋を無料でお配りするのを止めました。有料化ですね。それを境にして 20%を超え、今年はだいたい 33%まで、100 人のうち 33 人、3 人のうち 1 人が「レジ袋はいいです」と言ってくれるようになりました。

これは（資料 P. 23、24）その時の活動なのですが、多分三重県でもそうなのですが、お店屋さんがただ単に「レジ袋を止めましょう、要りませんと言いましょ」と言っても、それはよけいな世話ですよ。だってずっと今までスーパーマーケットはレジ袋をお渡ししながら商売をやってきたのに、いきなり「明日から 5 円です」と言われても、お客様にとっては「それは何？」と言われてしまいます。そうじゃなくて、「私たちがこれから先、この地球を子どもたちに今よりもいい状態で残してあげたいのなら、石油がなくなってしまうかも分からないのに、そんな貴重な物でレジ袋なんか作っていてもいいんでしょうか。ごみが増えてしまうんじゃないですか。そういうことを一緒に考えましょ」という、市民の皆様方と一緒に取り組んできたということが、こういった活動が進んできた大きな要因だと思っています。

実は、横浜市内で一番最初にやったお店は大失敗だったんです。それは、横浜市内でユニーのお店が勝手にやったからです。「じゃ、うちは来月からレジ袋は有料にします。お客様、お願いしますね」と。そうしたら売り上げが 13%ぐらい落ちました。その中の 5%はお客様が減ったんです。5%のお客様は、「それはユニーの勝手でしょ。今までずっと袋があったのに、いきなり明日から 5 円とはどういうこと？もう行かない」というようなお声を聞いたんです。それが 5%です。

あとの 7、8%というのは、マイバッグを持ってきたんだけど、入らなかった分は買わなくなったんです。その頃の販売個数はだいたい 20 個でした。お客様が 1 回お買い物にいらっしゃると、20 個ぐらいの商品を買って帰っています。マイバッグを持ってきたけど、入らない物は「まあ今日はいいわ」とか「レジ袋がもらえるところで買いましょ」ということで買わなくなったんです。両方合わせて 12、3%売り上げが下がってしまったんで

す。すごく困ります。普通、12、3%売り上げが下がると、店長さんはどっかへ飛んで行っちゃいます。

でも、諦めなかったんですね。だって、一生懸命私たちは地球環境のことについてだとか地域のごみを少なくしようと思ってやっているのに、ただそれがちゃんと伝わっていなかったからなんだということで、勿論、店長・副店長も頑張りましたが、レジで働いているチェッカーの方たちが一生懸命お客様に説明したんです。「レジ袋はなくてもいいですよ、これは石油でできているんです、これは使い終わったらごみになりますよね、だからレジ袋を使わないお買い物を私たちは進めているんです」と一生懸命説明してくれたんです。それから店長・副店長も一生懸命いい商品を安く売ろうという努力もしました。

で、3ヶ月経った時に売り上げが元に戻りましたし、今でも変わりません。だいたい100人のうち85人の方が「レジ袋は要りません」という買い物に変わってきました。その時につくづく思いましたのが、自分たちがお店屋さんとして勝手にやっても、なかなか理解はされないんだなと。だから名古屋市で次に取り組んだ時には、この方たちがそうなんです、市の職員の方とか女性会の方とか、それからボーイスカウトの子たちも来てくれましたし、それからエコマネーセンターとか、いろんな方たちと一緒にあってお店の中で活動しました。それで次にやった名古屋市では売り上げも下がりませんでしたし、最初から85%ぐらいのレジ袋の辞退率でした。

やっぱり要らない物はいいですよという、そういう生活をしていきたいと思います、私たちはお客様と一緒に進めていきたいと、それを今後もやっていきたいと考えています。

それから容器包装。さっき言いましたよね、ビールとか牛乳とかは、どうしたって容器包装が必要になります。なかったら買えません。そういう物は、一回お渡ししますが、持って返ってきてください。私たちがそれをリサイクルします。リサイクルして、もう一回トイレットペーパーなどにします。牛乳パックはみんなトイレットペーパーになっています。「アローザ」という商品です。

それから、例えばトレイは次のプラスチックになった時に、ベンチにしてお店に置いています。アルミ缶はもう一回アルミ缶にしています。そういうふうに、お客様に持って帰ってもらっちゃった、ごみになっちゃうんだけど、容器包装はリサイクルしましょうということを一生懸命やっています。

もう一つ、トレイの原料そのものでプラスチック・石油というのはもうなくなってしまうかも知れないので、これを植物のプラスチックに変えるということもしています。トウ

モロコシでできているバイオマスプラスチックなんです。これは植物ですから、地球上のCO₂を吸い込んで、光を浴びて水を吸い込んで、自分になっていますから、もう一回それを使い終わって燃やしても、埋めても、CO₂を増やしません。それにこれは実験をしたんですが、堆肥の中に入れると土に戻ります。このプラスチックというのは、温度が60℃以上になって水分が加わると分解してしまうんです。それをバクテリアが食べることによって、元の二酸化炭素と水に戻ります。これは16ページ（資料P.29、30）に書いてあります。そういう環境に迷惑をかけないプラスチックを使ったりだとか、それを回収してもう一度プラスチック製の容器にしたりとか、そういうこともやっています。

それらのことを何とか自分たちの世代で一生懸命やって、今の状態が少しはよくなるかも知れない。でも、それよりもっと大切なことは、それを今、これから先の地球を作っていくたり、これから先の環境を考えていくたりする子どもたちにちゃんと伝えることだと思います。子どもたちが大人になった時に、「そういうライフスタイルを選べるような知識とか体験をしてもらいましょう」というのをお店の中でやっています。

それが「お店探検隊」ということで、三重でのお店ではどこのお店でもやっているんですが、お店で募集をして、お店の中でやっている今お話したような、ごみを計ったり、リサイクルしたり、リサイクルした商品をお店で売ったりするところや、ごみ庫を回ったり、お店の中を探検して回ります。こういう活動を通して、お店では何をやっているのかということを見てもらったりしています。

この活動を、実は多分今日も来ていらっしゃるのかな。桑名北高校の生徒さんとも一緒にやったんですが、お店の中でそういう活動をする時に、お店だけでやるというのは、多分「自分たちの都合のいいことしか言わない」と思われるかも知れません。ですから、できればNPOの方だとか、それから学生さんやボランティアさんや、それから他の企業の方と一緒にやるということをやっています。

特に、私たちがお店の中でやっている環境活動というのは説明ができるんですが、子どもたちにもっと違うこと、例えば容器包装のように捨ててしまったらごみになるけれども、「もう一回それを使って工作をしてみよう、例えばペットボトルの工作とか、それから牛乳パックで紙漉きをしてみましょう」というようなことをやったださるNPOの方、これは（資料P.20）福井県のボランティアでNPOの方だと思うんですが、この方たちは牛乳パックを集めてリサイクルをするというのをずっとやっていて、紙漉きの工作を子どもたちと一緒にやってくれました。

それから、これは（資料 P. 20）中部電力さんと一緒にやったエコクッキングですね。お店で環境を考えて探検してみようというのをやったんです。「今日はクリスマスパーティーだからお好み焼きを作ろう。それを考えて材料を買ってきてくださいね。」それをアピタのお店でやったんです。お好み焼きの材料を一生懸命考えるんですね。「できるだけ国産の野菜にしよう」とか、「できるだけ県内で採れた野菜にしよう」とか、「小麦も国産にしよう」とか、「ソースはどうやって作ろうか」とか、一生懸命考えて買い物してきて、それを使ってエコクッキング、どうやったらエネルギーを使わないでクッキングできるか、どうやったら廃棄物をできるだけ少なくしてお好み焼きができるかというのを、みんなで一生懸命やりました。それを自分たちでごみは何g出たかとか、何カロリー使ってできたとか、そういうのを計算したりしてやったんですが、これもユニーという企業だけではできません。ですから、この中には中部電力のクッキングスタジオだとか栄養士さん、それからエネルギーについて分かる方が一生懸命説明しながらやっています。

それから、これは（資料 P. 19）お店の中の探検隊、これは多分石川県だと思いますが、石川県のグリーンコンシューマーを作るNPOなんですね。この8月に、あなたたちは何をやったらいいのかなというのを文房具とお菓子を使ってやったんです。よく環境にいい買い物、環境配慮商品とか詰め替え商品とか、それからさっき言いました再生紙のトイレットペーパーとか、それってお子さんが選ぶでしょうか。それはお母さんが選ぶものであって、自分で選んで買うものじゃないですよ。だから、ここではお子さんたちを文房具売り場へ連れて行って、エコマークだとか環境マークについて説明を受けた後、そういうものが付いた物を選んでくる、もしくは一番環境にいいと思うノートを買ってきてごらんというのをやるんです。

実際のお店の中で買い物ができるって、何か楽しいでしょ。買い物ゲームじゃないです。本当に買おうと売り場へ行って買物をするんです。そしてマイバッグに入れて持って帰ってくるんです。それについてはこの『こども環境レポート』の6ページあたりに出ているんですが（環境マークの説明、環境配慮商品を掲載）、こういうものを見ながら、お子さんたちに「ノートとボールペンを買ってきて。一番環境にいいやつ」と言うと、一生懸命買いに行くんですね。で、買ってきたものをみんなで見せっこするんです。これはエコマークとグリーンマークなど四つも付いているとか、これは再生紙使用マークで「100」って書いてあるから再生紙100%だとか、ボールペンもエコマークが付いているとか、一生懸命みんなに説明してくれるんです。

そういう物を買うということはどういうことなのかということを考えるのです。

例えばリサイクルでできた物であれば、本当だったらそれは埋められちゃったり燃やされちゃったりする物です。もう一回命を与えられて作られた物を買うということが、自分たちが物を大切にしたり、ごみを減らしたり、リサイクルをしたりすることにつながり、自分たちもそれに参加しているんだということを感じてもらっています。

それからお菓子というのもおもしろいですね環境にいいおやつを買って来てね」と言う課題を出すんです。「飲み物とお菓子を一つずつ買ってきてね」と。そうすると、何を選んだら環境に良いかを考えるんですね。ペットボトルに入っているのは、ペットボトルがリサイクルできるから環境にいいとか、牛乳パック、紙パックのほうがもっといいに決まっているとか、いや、ビンがいいとか、一生懸命容器を考えたり、中身を考えたりするんです。これは天然100%のジュースだとか、一生懸命考えて買ってくるんです。で、「飲む時には何を使うんですか」と。そこに陶器のお茶碗とかガラスのコップとかバイオマスプラスチックのコップとか紙コップとかいっぱい並べておいて、「どれでも好きな物で飲んでください」と。

お菓子もそうなんです。お菓子を買に行き行く時も一生懸命考えるんですね。ごみが出ないお菓子って何だろうと。お煎餅を食べたいなと思っても、1枚1枚小袋に入っているのはごみが増えるはずだから、全部いっぺんに入っている物がいいと思うとか、紙に入っているのがいいと思うとか、一生懸命考えます。

考えて、買ってきた物をまたお皿に乗せたり、つまんで袋から食べたり、いろんなことをやります。それでどこのチームが（みんなチームで行くんですが）、一番「環境にいいおやつを食べたか」というのをみんなで評価したりするんです。そういうゲームをお店の中でやるというのは、なかなか子どもたちにとって楽しいことだと思います。だって、ゲームだったらどこかのこういう会場を使って何とかごっこですけれども、実際にお金を持ってカゴを持って買い物に行って、マイバッグに入れて持って帰ってきて、それを自分たちで使ったり食べたりする、そういう体験がお店の中の環境学習ではできるんですね。

ただ、その時にはやっぱり一般のお客様に迷惑にならないように、私たちが見ていたりとか、ボランティア、NPOの皆さん方がそっと見守っていたりしますが、そういう活動の中でうちの従業員だとかNPOやボランティアさんや市民団体や業者の方、みんながプログラムを作ってそれを実施するというのは、私たちやるほうも楽しいです。子どもたちもみんな一生懸命やってくれるし、結構みんな喜んで、学ぶと言うよりは遊んでいって

れます。

そういうことが、私たちの小売業の中では大切なんじゃないかなと思っています。だって、小売業がいくら「エネルギーを使っていません」とか「ごみを出していません」とか、自分たちの商売について言っても、それは自分たちの迷惑をかけた分をできるだけ減らしましょうという、ちょっと悪いことをしちゃったから減らしましょうというような、そういう意味合いしかないと思っています。

でも、次に生きる、次世代の子どもたちにこのお店の中でいろんなことを体験してもらって、それが次の「自分たちが何を選んだらいいのか、どんな生活をしたらいいのか」というヒントになるのであれば、それは小売業としてやる価値のあることなんじゃないかなと思っています。

こういう活動はどこのお店でもできます。ですから、特別な活動をNPOさんと一緒にやることはあまりないかも知れませんが、例えば小学校ですと必ず3年生か4年生で見学に来ます。その時にもこういうことを先生と一緒にやったりしています。

特別に何かを勉強しましょうとか、特別に何か知識を得ましょう、技術を得ましょうということではなくて、毎日、毎日の生活の中で、何に気を付けていったらいいのか、どういうことをやればいいのかということを考えるということ、それからそれを実際に買い物をしたり、物を大切にしたりすることによって実施する、実践するという、そういうことが次の世代にちゃんと伝わっていけばいいかなと思っています。

特に、私たちがこれから2050年までにCO₂を80%削減しないと、もう地球は自分たちが普通に息をしたり、空気を吸ったり、お水を飲んだり、空が青かったり、海で泳いだりする生活ができなくなってしまうかも知れない。

でもその時に、すごい革新的な技術ができて、「工場がぜんぜんエネルギーを使わなくなりました。それから車も電気自動車になったからガソリンは使いません」という社会が実現しているかもしれません。とは言っても、一番大切なのは普通の人の普通の生活がどれだけ環境に配慮していて、そしてそれが快適かどうかだと思っています。

レジ袋なんてほんの小さな一歩です。でも、「レジ袋は要りません」という行動をする人が、次に、「じゃあどういことが環境にいいのか、どういことがごみを減らせるのか」というふうに考えてもらったりやってもらったりする。それを見ている子どもたちが、自分たちが大人になった時に、どんな家に住んだらいいのか、どんな車に乗ったらいいのか、どんな生き方をしたらいいのかということが判断できるような大人になってくださった時

に、初めて 2050 年、40 年後に CO₂ が 80%削減された低炭素社会ができるんじゃないかなと思っています。

だから、私たち企業は企業の中で、企業活動の中で出している CO₂ を減らしましょうとか、ごみを減らしましょうということをやりますけれども、それ以上に私たちに係わってくださっている消費者の皆さん、特に次の世代の子どもたちに何を伝えていけるかということをやっていくことが、小売業の使命じゃないかなと思っています。

ですから、私たちが未来の子どもたちに美しい自然を残したい、私たちは低炭素社会実現のためにお客様や関係する方たち、お取引先様やメーカーさんや業者の方みんなと一緒に進めていきたいと思って活動しています。

簡単ですけども、これがユニーがやっている環境活動と、それから子どもたちに対する私たちのほんのささやかなプレゼントです。

三重大大学の朴先生がよくおっしゃっている言葉があります。アメリカの古いインディアンの言葉だそうです。「自然は、祖先からの贈り物ではなくて、子孫への預かり物」だそうです。だから私たちが今やっていることが次の世代の人たちへの贈り物であるように、そういうことを考えながら生きていければかなと思っています。

これで、私のお話は終わりなのですが、何か質問もしくは意見がありますでしょうか。

(質問者 1)

食品関係の会社で難しいかなと思うんですが、通い箱の件、生産者と企業との間の物流に使う容器ですね。これも段ボールとかが非常に排出量が多いと資料に書かれていましたので、食品会社なんかでも衛生面等で工夫されて、通い箱で何回も何回もそれを使いこなしていくということによって排出量が減って行くんじゃないかなという感じがしたんですが、どうでしょうか。

(百瀬)

通い箱というのは、プラスチックで折りたたむと小さくなる、折梱という箱なんですけど、ユニーも使っています。食品に関しましては、例えば紀文さんとか、蒲鉾とか納豆だとか何個かずつ一つのお店で 20 個とか 30 個じゃなくて何個かずつ仕入れる物というのは、バラバラにして運んだほうが効率的ですよ。いつでも新しい物が入りますよね。そういう混載というものに使ったりとか、それから物流センターでそういう倉庫の大きいところなんですけど、そこで小分けしながら使う時には使っています。

全部が通い箱にならないのかと言うと、一つだけ問題があるのは、通い箱は返さないとい

いけないんですね。返せるところには通い箱は返しますが、一番困るのは海外からの輸入品なんです。ユニーに限らず、結構東南アジアとか中国あたりから洋服だとかいろんな物が入ってきます。これは全部段ボールに入ってくるんですね。それはお返しできないものですから、段ボールが多いです。あとは、ユニーの倉庫を経由してくる物については倉庫に返せばいいので、通い箱を使っています。

ですから、そういう仕組みが本当はもっともっと全世界的に広まっていけばいいんですが、もう一つ考えないといけないのは、帰り荷もまたエネルギーがかかっているということなんです。

ちょっとついでに言ってもいいですか。さっき言いました、お客様がお店の中にアルミ缶とかトレイとかそういう物を持ってきてくださっているんですが、それについては全部お店に集めて、その後、物流センターという倉庫に持って帰っていきます。それは商品を持ってきたトラックに入れて送り返すので、エネルギーは余分にはかかっていません。それは14ページ(資料P.27、28)に出ています。お店に商品が朝行きます。そうすると、そこにお店で集めたアルミ缶とかトレイとか牛乳パックを入れて倉庫に持っていきます。そこでそれぞれのお店の量を全部量って、持って行きやすいようにペッチャンコにして塊にして、それをリサイクル工場へ持っていきます。これができないと、物を動かすのにみんなエネルギーがかかってしまいます。例えばプラスチックというのは本当にかさばるんですね。ペットボトルあたりですと、2t車に乗せたとしても、500kg分しか乗りませんでした。もう空気を運んでいるようなものなんですね。その後、物流センターでペッチャンコにして、できるだけたくさんの荷物が運べるようにしてリサイクル工場のほうへ持っていきます。

通い箱に関しては、最近、下着ですとか靴下にも使用するようになりました。もっといろいろな商品にも使えるようにいたしますので、お店で商品を出しているときなど、見てみてください。

ありがとうございます。

(司会)

よろしいでしょうか。他にご質問のある方、おみえになりましたらお手を挙げてお知らせください。

(百瀬)

あと、NPOさんとかボランティアさんですとか、それから町内会、子ども会とかいろ

んな団体の方で、今日お話したことで興味を持たれて、うちもお買い物ゲームをお店の中でちょっと子どもたちにやらせてみたいとか、いや、子どもだけじゃなくて大人もやってみみたいとか、それから大人はごみも見てみたいなどという方がいらっしゃいましたら、だいたいどこの店でもそういうことは可能です。ですから、直接店長に電話をしていただいて、そういうのをやりたいんだけどとお話していただいても結構ですし、またこの『環境レポート』に書いてある環境部に電話（百瀬氏の講演録の最後に記載）していただきますと、私もしくはうちの部員が出ますので、ご相談していただければいろんなことができます。

ただ、あまりたくさんの方がお店の中を動きますと、お客様が十分に買い物ができなくなってしまいますので、1グループ20人ぐらいでしたら、それぞれお引き受けいたしますので、ぜひ見学にいらしてください。いろんなことをやっていますので、店の中というのはこうやっているのかとか、ごみはこうやって保管しているんだとか、見ていただければまたいろいろご理解いただけるんじゃないかなと思います。

名古屋あたりですと、子ども会単位でもお子さんと一緒にお母さんが見学をしたり、工作をしたりとかしていますし、NPOさんの企画で子供環境学習をやることもあります。ですから、ぜひ興味を持たれた方はご連絡いただければ、年明けあたりにも活動できると思います。

今、愛知・三重・岐阜・名古屋市の3県1市でグリーン購入キャンペーンの企画をしています。1月15日から2月14日の間に環境にいい商品をお客様に買っていただきましょう、そういうキャンペーンなんですけど、いつでもユニーは一つの県で一つのお店以上、いろんなところで環境学習をやっています。去年は四日市店でやったんですが、今年は桑名店でやる予定です。桑名店で、多分もうそろそろ募集をかけるとお思いますので、そうしましたらぜひ興味を持たれた方は参加していただきまして、グリーン購入、どんな物が環境にいい買い物なんだろうとか、もしくはこんなことをお店はやっているけどというようなものを見ていただけるかなと思っています。よろしかったらぜひご参加ください。

他に何かありませんでしょうか。

また質問がありましたら聞いてください。

では、どうもありがとうございました。

(司会)

百瀬様、大変ありがとうございました。

ユニー株式会社のさまざまな取り組みについてご興味のある方は、先ほどお話がありましたとおり、ユニー株式会社のほうにご連絡ください。

(参考)

ユニー株式会社 環境社会貢献部

住 所：愛知県稲沢市天池五反田町1番地

TEL：0587-24-8093

FAX：0587-24-8034

URL：<http://www.uny.co.jp>

【鈴鹿市立天名小学校の取組発表】

(司会)

それではお時間がまいりましたので、鈴鹿市立天名小学校の皆様から、エコキャップ運動などの学校での環境エコ活動についての取り組みを発表していただきます。

なお、天名小学校様につきましては、社団法人食品容器環境美化協会の第9回環境美化教育優良校等の表彰のリサイクル部門において「協会会長賞」を一昨日受賞することが決定しましたのでお知らせします。

本日の発表は、児童4名と担当の先生の澤井 寿和先生にお願いします。

(天名小学校・澤井)

皆さん、こんにちは。鈴鹿市の天名小学校からやってまいりました。私、担当の澤井と申しまして、こちらが先ほど紹介していただきました3年生の4人の子どもたちです。

この子どもたちが中心になりまして、自主活動で行っている省エネ委員会の活動について今日は紹介をさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

《この後は、児童4名が交代で発表しています。》

(天名小学校・児童)

こんにちは。私たちは、鈴鹿市にある天名小学校の省エネ委員会です。

今日は、私たちの活動について発表します。

(天名小学校・児童)

私たちの天名小学校は、1年生から6年生までで94人しかいない、鈴鹿市で一番小さな小学校です。

天名地区は鈴鹿市の南にあって、お米づくりが盛んです。天名で取れたお米は、鈴鹿で一番おいしいと言われていています。

私たちの天名小学校でも、地域の人たちに教えていただいて、籾撒きから田植え、稲刈り、脱穀、籾すりと、みんなでお米づくりをしています。取れたお米は地域の人と一緒に「天名マイふれあいフェア」という行事で、おにぎりにしたり、お寿司にしておいしくいただきます。

また、稲刈りをして残った藁で工作コーナーも、リースや草鞋、藁人形を作ります。竹で竹馬、竹ぼっくり、竹トンボなども作ります。稲を使うのも一つのリサイクルになると思います。

人数は少ないですが、みんな兄弟のように仲のよい、楽しい小学校です。

(天名小学校・児童)

天名小学校の省エネ委員会は3年前にできました。4年生以上がやってくれている児童会の委員会とは違って、省エネに興味がある子たちが自分たちで集まってできた委員会です。

その時の教頭先生が、「この頃、省エネができていないな」とおっしゃっているのを聞いて、「委員会を作っているですか」と聞いたら、「そうしようか」と答えてくださったのがきっかけでした。

私たちは、省エネ委員ができた時に1年生で、それからずっと省エネ委員会で活動しています。今は3年生のうち、私たち4人が中心となって活動しています。今、省エネ委員会は1年生から3年生まで31人のメンバーで活躍しています。朝や業間の休み時間を使っていろいろな活動をしています。

それでは、私たちの活動について説明します。

(天名小学校・児童)

私たちが今一番力を入れているのが、エコキャップ集めの活動です。

新聞を読んでいたら、ペットボトルのキャップを集めることで、世界で病気に苦しんでいる子どもたちにワクチンを送れることを知って、先生たちに相談して活動を始めました。ペットボトルのキャップ800個を集めると20円になって1人分のワクチンが買えることになります。全校のみんなに呼びかけて協力してもらい、これまでに50,820個のキャップを送り、約64人分のワクチンにすることができました。

こうやって使うことで、キャップは捨てられ、ごみになってしまうことを防ぐことができ、二酸化炭素を減らすことにつながります。

写真は、私たちが校内で呼びかけているポスターと、キャップを集めるための箱です。先生や全校のみんながキャップを持って来て、この箱に入れてくれます。

(天名小学校・児童)

みんなが箱に入れてくれたキャップを、私たちが校長室や図工室で休み時間に数を数えます。校長先生に数え方の工夫を教えてもらったりしながら、100個、200個とみんなで数えていきます。たくさんキャップを数えるのはとても大変ですが、「いっぱい集まったなあ」と嬉しくなって、頑張って数えています。

数えたキャップは袋に詰めて「エコキャップ推進協会」というところに送ります。

(天名小学校・児童)

もっとみんなに協力してもらうために全校集会でも呼びかけました。集まったペットボトルのキャップをみんなに見せたり、エコキャップ集めについてのクイズを出したりして、活動が分かりやすいように紹介しました。みんなの前ではとても緊張します。何回も練習して頑張って発表しました。小さい学年の子たちも楽しそうにクイズに答えたり、一生懸命聞いたりしてくれました。

(天名小学校・児童)

集めたエコキャップを鈴鹿市のごみ袋に詰めてみると、こんなにたくさんの量になりました。一袋で4,000個入っています。あんまりたくさんなので運ぶのにこぼれてしまったり、とても重くて苦労しました。

この写真を撮った時からあともどどんたくさんキャップが集まっています。これからももっとたくさん集めて、ワクチンに換えていけるといいなと思います。

この頃、いろいろなお店や鈴鹿市の体育館の施設でもエコキャップを集めているのを見かけるので、とても嬉しいです。

(天名小学校・児童)

エコキャップの他にもプルトップ集めの活動をしています。空き缶の蓋に付いているプルトップを集めます。プルトップを800kg集めると、車椅子1台を買うことができます。これも全校のみんなに呼びかけて協力してもらっています。

(天名小学校・児童)

この間、プルトップ集めの窓口をしてくれているマルハンという会社の人が、私たちが集めたプルトップを取りに来てくれたので、贈呈式をしました。「これからもたくさん集めてください」と声をかけてもらいました。これからも頑張って集めていきたいと思います。

(天名小学校・児童)

他にも省エネ委員会では、いくつかの活動をしています。私たちが全校のみんなに興味を持ってもらうために集会で発表をしたり、私たちが新聞で見つけた省エネに関する記事の切り抜きを模造紙に貼ってお知らせをします。

家で記事を見つけると、切り抜いて大切なところに線を引きます。そしてノートにまとめて付箋に書いて、記事と一緒に貼ります。中には『ゼロ吉』君の記事もありました。他にも、集めたキャップの数や電気の使用量をグラフにして、分かりやすく紹介していきます。

(天名小学校・児童)

省エネ委員会の他にも、私たち天名小学校では、省エネや環境のためにいろいろな活動をしています。EM菌を使った活動もその一つです。掃除の時間にはEMをトイレの便器に撒いて、嫌な臭いがしなくなったりするようにしています。EMの液は教頭先生が薄めてスプレーの容器に入れ、私たちが使いやすいようにしてくれています。

(天名小学校・児童)

秋に行われる「天名マイふれあいフェア」でも、自分たちの作ったお米を研いだ汁を使って、地域の人や校長先生や教頭先生が作ったEM発酵液を全校のみんなが持ち帰るようにしています。

(天名小学校・児童)

また、EMぼかしを使って、トマトやナスなどを育ててみました。できた野菜を食べてみたら、EMぼかしを入れたほうが甘く、おいしくできたような気がしました。

(天名小学校・児童)

この他にも、図工の時間に使う材料をみんなが家から持ってきて、ロッカーに集めています。卵パックや発泡スチロールのトレイ、トイレットペーパーの芯など、たくさんの物を集めて、必要な時に使っています。家で捨ててしまうより、いろいろと使えるのでいいと思います。

(天名小学校・児童)

学校には「フロアナビ」という機械を付けて、電気がどれだけ使われているかを調べ、分かりやすいようにグラフにして掲示したりして、みんなで電気の無駄使いをしないように気を付けています。

休み時間に電気が点けばなしの教室があるのに気が付くと、省エネ委員が呼びかけて消してもらったりしています。

また、掃除の時間にはプラスチックの桶を置いておいて、雑巾を洗うのに使い、水を無駄にしないようにしています。

(天名小学校・児童)

この他にも、省エネについての展示をしてあります。前の校長先生が理科が得意だったので、いろいろな物を作ってくれました。光電池を使った工作や、観察池のヘドロを使ったヘドロ電池なども飾って、みんなが手が触れられるようにしてあります。

(天名小学校・児童)

また、学校の近くにある中ノ川で「中ノ川クリーン作戦」をしています。今年は12月

1日にしました。高学年が川原の掃除をして、私たちは花を植えたり、学校の周りのごみ拾いをしたりしました。植えた花は地域の公民館や郵便局でも飾ってもらい、きれいな町づくりをしています。

僕は、省エネ委員を通じていろいろな発見や驚きがありました。特に、キャップが世界の子どもたちを救えるワクチンに換わること。普通に捨てていたプルトップが800kgで車椅子になることが大発見でした。

その他にも、光電池、それに太陽光発電を使った水槽など、いろいろなことがあり、いろいろ発見ができて、省エネ委員に入ってよかったと思います。

そして、こんな活動が世界中に広がるといいなと思います。

(天名小学校・児童)

私は、省エネ委員をして、電気の点けっぱなし、水の出し過ぎなどの無駄使いをしてはいけないと思いました。そして、家庭でも人のいない部屋の電気を消すこと、水を大切に使うことなど、身近にできることをいろいろと話し合っ、少しでも温暖化を止められるように取り組んでいます。

また、新聞を切り抜いたり、エコキャップ、プルトップ集めや、フロアナビ、電気、水の点検などをすることで、地球にやさしい活動の大切さをみんなに知って欲しいし、実際に取り組んで行って欲しいです。4年生になると委員会などで忙しくなりますが、今の2年生の子に省エネ委員のこともうまく渡していけたらいいです。

(天名小学校・児童)

僕は、省エネ委員をして、エコの大切さやキャップが800個で1人分のワクチンになることや、プルトップ800kgで車椅子1台が買えることも知らなくて、省エネ委員をしてから知ったことです。他にも、省エネ委員をしてから教わったことはいっぱいあります。

来年は他の委員会をすることになるかも知れないので、2年生に頑張って跡継ぎをしていきたいです。

(天名小学校・児童)

私は、省エネ委員をして嬉しかったことは、省エネ委員になった子たちは、集まる時はみんな一生懸命やっていたことです。私は、みんな他の子どもたちのことを考えているんだなと思って、嬉しいです。

それから、1年ぐらい入っている子は、みんな数えるのが速くなっていたことです。4年生になったらできなくなるかも知れないので、2年生にやって行って欲しいです。

これで私たちの発表を終わります。

(司会)

天名小学校の皆様、どうもありがとうございました。

天名小学校様に対する意見交換につきましては、次の桑名北高等学校様の取り組み発表が終わった後に、併せて行わせていただきたいと思います。

【三重県立桑名北高等学校の取組発表】

では、続きまして三重県立桑名北高等学校の皆様から、文化祭でのマイ箸、マイコップなどの学校における環境取り組み、ロハス活動について発表していただきます。

本日の発表者は、担当の伊藤三洋先生です。

では、桑名北高等学校の皆様、よろしくお祈いします。

《DVD上映・内容は桑名北高校が活動している映像と音楽》

(桑名北高校・伊藤)

このDVDは高校生が作った、うちの学校の環境活動です。ロハス試行会というのは、この本題の中で話をさせていただきますが、私的なグループ、天名小学校さんと同じようなグループです。公式な団体、委員会としては認められてはいません。

そういうことで、私、今日は「ロハス・スクールへの試み」ということでお話をさせていただきます。

高校生の場合はなかなか、今、天名小学校さんとか、その前にお話されたユニーさんのように、環境に関して重視統制というわけではありません。いろんなところで壁がありまして、そう思うようには進んでいかない。

ただ、うちの学校としましては、昨年度になりますが、ユニーさんのほうにいろいろ見学会やら協力させていただくことを通して、うちの学校もエコシステム、学校の中でいろんなエコシステムができたらいいなということを考えるようになりました。それでもなかなかうまく行かないんですが、とりあえず今日は、心身ともに健康で地域の皆さんとともに元気でありたいと願っておる、そういうようなことで「ロハス・スクール」というテーマでお話をさせていただきます。

ロハス（LOHAS）というのは、ご存知のように“Lifestyles Of Health And Sustainability”の略語でありまして、そのロハスを学校の中で何とかシステム化していきたいなというふうに考えております。

ロハスの意味というのは、「健康で持続可能な社会を志向するライフスタイル」という意味で、最近あちこちでこの言葉が使われるようになっていますが、概念としてはいろんな概念があるかなと思うんですけども、うちの学校で考えているのは「健康で持続する社会」、そういうシステムを何とか考えていきたいという、まだ試行的なところですので、ロハス・スクールへの試みをやっている私たちは「ロハス試行会」というふうに考えて、やっております。

学校の場合、組織は、公的な場合、学校長が頂点にありまして、教頭が地域やいろんなところと関係し、その下に教員の代表である企画委員会があり、その下に教職員や生徒会、生徒会の中にはいろんな委員会がありまして、その中に「環境委員会」というのがとりあえず存在しています。

それだけではなかなかうまく行きませんので、この2008年度は環境に関心のある教職員を中心に、校長を仲間に入れ、それから生徒を引っ張り込み、そして環境ボランティア団体だとか環境教育に参加したいと思ってみえる個人の方だとか、いろんな興味のある方を仲間に誘い込んで進めていこうと考えている組織であります。

この桑名北高校がこれに取り組んできた、その経緯をちょっとお話をさせていただきますと、はじめは2003年度のことなんですが、私がここの学校に来た時には「生活委員会」というのがありました。これは生徒指導部という、生徒の生活を正そうと。そして、悪いことをした子に叱りながら、矯正の道を考えようというようなところだったんですが、そういう委員会がありました。

この時、恥ずかしいお話なんですが、うちの学校の生徒は、通学路で煙草を吸い、パンをかじりながら、歩きながらごみを隣のブロックの中に放り込んでくる、煙草の吸殻をブロックの穴の中に突っ込んだまま来たというような、そんなような生徒たちがちょっとおりました、それが地域から叱られました。そういうことで、この生活委員会がそういう悪いことをした子も誘いながら、お詫びの掃除をしました。

そういうようなことを2003年、2004年というふうに行いましたところ、地域からは「ちょっといいことをやっているじゃないか」「ごみをしなくなったな」「かわいいところもあるわな」というような評価を受けるようになりました。

私が2005年度に保健部長をやらせていただくことになりまして、私の考え方としては、悪いことをした子を叱ってごみを拾わせる、嫌々させるということはあまりよくないんじゃないかと。そういうことじゃなくて、生徒指導部から保健部のほうにその組織が変わっ

てきたということもあって、名前を「美化委員会」というふうにして、今までの終わりの掃除も学校周辺清掃とか、それから無理矢理ごみの分別をさせていたんですが、これもみんなが体験することのほうがいいんじゃないかということで、ごみの分別を当番制にしました。

2005年度、ちょっと見にくくて申し訳ないんですが、その学校周辺清掃の時に、こういうふうに関心を持っていただき、ごみ拾いをやっている学校があるということで新聞に載せていただき、地域の人も「ああ、やってくれているんだ」「桑名北高校が新聞に載ったよ」というふうなことで、わりと協力的になりました。

そして2006年度にはもう少し増やそうということで、「花いっぱい運動」ということで、プランターに花を植えて、幼稚園、それから駅、警察署、郵便局などに配りました。

それからもう一つは、地域と一緒に「さわやかクリーンデー」と言って、はじめ計画をしていたのは地元の小学校と川原のごみ拾いをしたりという、そういう小・高の連携で何かやってみたいなというようなことを考えたりしていました。

何度か「花いっぱい運動」をやっているうちに、たまたまだったんですが、12月に「花いっぱい運動」ということで保育園のほうにプレゼントに行きました。そうしたら、保育園の子たちが出てきて、「お兄ちゃんと一緒にごみ拾いをしたい」みたいなことを言うので、急遽、近くですので、生徒会のメンバーがサンタクロースの格好をして出てきて、一緒にごみ拾いをしたというようなことがあって、これも新聞に載せていただきました。

そういうようなことで、今日来ている生徒が2008年度の生徒会長だったんですが、「僕は環境で学校を変えたい、三重県で一番きれいな学校と言えようようにしたい、環境について一生懸命やりたい」ということを申し出て立候補し、生徒会長になりました。そういうことで、美化委員会と言うよりももう一歩進んだ「環境委員会」という名称に、同じ組織なんですけど名称を変えまして、そこでやったことが文化祭で「マイ箸」を呼びかけて、ごみの減量化に成功したり、それから「さわやかクリーンデー」と称して前年度までやってきた地域の人とごみ拾いをしたり、それだけでは足りなくなって、いろんな人が出てきてくれるようになりました。

今年度なんですけど、はじめに言いましたように、昨年3月と言うか、8月にユニーさんに一度NPOの協力をさせていただき、それから3月に今、百瀬さんから話がありました環境のほうの勉強をさせていただきました。

その時にうちの学校もこういう「ロハス」ということを考えた組織にしていきたいなど。

学校長、事務長、いろいろと話し合う機会がありました。というのは、たまたまなんです、来年、うちの学校は30周年になります。ですので、その記念事業に何かやりたいなというような管理職の考えもあったんですが、なかなか最初に申しましたように、学校の組織というのはうまく行きません。でも、いいことなんだから何とか進めていきたいなということで、「ロハス試行会」という中で活動を始めようと考えているところです。

これは生徒会の取り組みです。今さっきとよく似たパターンなんです、ちょっとビデオを見ていただければと思います。

《ビューティフルマジック 2008 (DVD)》

内容は教室の風景ときらきらアンケートの結果を音楽に乗せて上映》

これは実は、生徒会が、環境をもうちょっとよくしたいということで、文化祭の時に発表したものです。

続いて、今出しましたこの「環境活動の参加意欲」というのは、実はその生徒会がビデオを作っている時に、僕も「うちの生徒って本当に環境活動に積極的なんだろうか、どうだろうか」というような疑問も持ちましたので、学校の生徒を見ながらちょっと心理的なところを観察してみました。

で、「きれい・さっぱりしたところで生活したいか」というふうに見ると、まあ誰もが生活したい。

それから、「環境美化活動に貢献したいか」と言うと、貢献したいという者がほとんどで、したくないという者もやっぱり何人かおられます。

それから、「掃除当番で作業するのはどうか」と言うと、嫌だという者はやっぱり少なく、誰もが掃除はしますよ、やれと言われればやりますよというようなことをちゃんと言います。

それから、「掃除当番でなくても作業はしますか」というのも、そんなに嫌じゃないし、けれども周りでごみをしている人がいるのに、自分が掃除をするのは嫌だという、下のところですね、そんな意見がやっぱりあります。

特に、汚す人が「掃除しろ」と言ったって、「そんなの誰がするか」というような、そんなような高校生の心理が垣間見られました。

じゃあ、そういうことでどういうふうなことが見えてきたかと言いますと、はじめ僕は、「ごみを捨てるような人を徹底的に捕まえてごみ拾いをさせる」、これはあまりいいことじゃないんじゃないかなと僕は思って、善意で掃除しようじゃないかというようなことを呼

びかけようとしたんですが、これはやっぱり間違いかなと。やっぱりごみを捨てるやつには拾わせなければいけない、力づくでもさせなきゃいけない。そしてまた一緒にやろうよと言って、仲間を誘い込む。これがこういう環境活動に引っ張り込むには大切じゃないのかなというような、このデータから見て、僕が反省するようになりました。

うちの学校は普通の普通科の学校だと思っているんです。そういう普通の学校のロハス・スクールへのシナリオというのをどうしたらいいのかというのをちょっと考えてみました。

そのためには、まず意識改革が必要じゃないか。そのはじめに出しましたデータとか、生徒が文化祭で出したデータとか、ああいうものを見せることによって、意識調査、「みんなこういうような気持ちなんや。けどもうちょっとみんなできれいにしない？」というような、そういうところから始めるべきかなと思います。

そして、その活動の参加体験、これも例えばごみの分別なんかもそうなんですが、分別してよと言っても、分別の仕方を知らないとできない。だから、分別の当番を順番で行います。そして、このようにして分別しているんだから、あなたが教室でごみを捨てる時にはそのように分別して出してくださいよと、伝えます。意味が分かってくると、結構分別が可能になってきます。

そういうふうにして、一番最後のほうで分別しているけれども、あなたたちが先に分別してくれることによってきれいになりました、「ありがとう」ということをすれば、またみんながそういうことをどんどんやる、そういう気持ちになってくると思います。

そうなってくると、私たちのロハス試行会もそうだと思うんですが、いろいろと環境美化活動に参加して、ボランティア活動等をすることによっていろんなことが勉強したいなと、そういうふうに積極的になってくると思います。

ただ、高校生ですから、いくら積極的にやっても、なかなかその先どうしたらいいのか、なかなか見えてきません。そういう時には環境の一般的なボランティアの皆さんとか、先輩方がいろいろと指導していただき、ごみの分別にしろ、ごみの拾い方にしろ、地域の人から教えてもらうことによって、「あっ、こういうふうにやったらいいな」とか、また地域に人とのコミュニケーションが取れたりして、いろんないいことができるんじゃないかなと思います。

そういうリーダーになってくるとだんだんと心配になってくるので、できれば先進地の視察をさせてもらったり、今日のようなこういう会合に参加させていただいて、もっとこ

うということがあるんだなというような勉強をさせていただいて帰りたいなと思っております。そういうようなことを考えながら、多分もっともっと進んだプランができてくるんじゃないかなというふうに期待をしております。

私たちがやってきた活動の紹介をさせていただきます。

まず、「地域との協働」ということで、道路及び河川の清掃。まずこの写真に出ていますのは、私の学校の裏にあります流石（さざれ）川という川です。この川は、本校の裏を通りながら六つの地域の市街地を通って揖斐川に流れています。この流れている地域にはいろんな地域がありまして、下のほうの人は、「ごみがいっぱい。だけど俺たちはごみはしていない。上の人か流すからだ」と。上のほうの人は「俺のところはきれい。だから何で下のほうまでごみを拾いに行かなくちゃいけないんだ」というようなことを聞きまして、また生徒が住んでいて、なかなか住みにくい地域だから、学校でやろうよと。学校がやろうと言ったら周りの人が出てきてくれるんじゃないかというようにやった時に、一番下のほうでごみを拾いに出てきてもらった地域の方との写真です。

それで、またその逆で、今年の3月にあったんですが、地域の人がちょうど桑名東インターのインターチェンジ付近なんですが、旧道路公団と言ったほうが分かりやすいと思うんですが、旧道路公団の道路の中からごみが出てくる。だから、地域の人がいくらネットの外でごみを拾っても、いつでも飛び出してくるから溜まってくる。逆に、その道路公団のほうにごみを拾ってくれと言うと、自分の敷地内しか拾ってくれなくて、その外に出てきたごみは拾ってくれない。そうすると、ちっともきれいになったような気分にならないということで、「すみませんが、桑名北高校さんで音頭を取ってやってくれませんか」というようなことで、音頭を取らせていただいて、ある日、地域と企業双方が出まして、ごみ拾いをさせていただいたということもあります。

それから、30周年記念というようなことを言いましたけれども、地域の人が「田んぼを貸してあげるから、コスモス畑でも作ったらどう？」というようなことを言われて、読めるでしょうかね、「KUWA」というのが左側です。それから右側に「K I T A」とローマ字で書いてあるんですが、こんなような遊び心で地域の花をいっばいに協力しようというので、今年やってきました。

それから、「環境啓発の参加」というようなことで、これも地域のボランティア団体の方が今年「そういんエコフェスタ」をやるので、モリゾーとキッコロとかゼロ吉を作ったらどうやということ、ゼロ吉君を作ろうか、どうしようかと言っていたら、1週間前に新

聞で桑名北高生がゼロ吉君を作って参加しますと言われて、慌てて作ったんですが、そういうことでこういうゼロ吉君を作って、子どもたちと遊びました。

それから、これは生徒会と一緒になんですが、文化祭の時にマイ箸・マイコップ、この場合はマイ皿運動というのは運動というのをやりました。本来、文化祭の模擬店の時に、自分が家から箸と茶碗とコップを持ってきて、そこで焼きそばなら焼きそばを買って、自分の皿に入れてもらい、ジュースも自分のコップに入れてもらい、持って帰るというシステムにしているんですが、必ずしも全員がそれを持ってくるということはないので、生徒会が急遽、100円で貸し出す、終わったら洗って返してねという、そんなようなことをしています。

ごみの減量ということで言いますと、始めた3年前には文化祭が終わると、ごみのパッカー車が3台来ていただいて、そのあと、生ごみじゃないですけど、ビニール袋にラーメンの汁などを入れながら持って行き、そこに箸が入っていたりすると、箸がビニール袋を突き破って、汁が流れて汚れたままのところを歩き回るというようなことがあって、大変不愉快な文化祭の後だったんですが、このことを始めてからパッカー車1台で十分、まだ余裕ができてくる。ましてや生ごみはほとんど出ないというような文化祭になりました。

その他にいろいろと「3R思考の習慣化」ということで生ごみのリサイクル、エコロンポをいうのを買って、生ごみをリサイクルしています。これは木のところに入れます。それからデポジットというのも、これも事務とか生徒会の希望で、缶ジュースを買った後のデポジットをやっています。

その他にも、今、事務のほうで考えてもらっていますし、これからいろんな地域やら会社のほうの勉強もさせてもらいながら、グリーンコンシューマーということを考えて、組織を作っていけたらいいなというようなことを考えております。

時間がそろそろ終わりになってきましたので、まとめとしたいんですが、普通科の高校がロハス・スクールになるための課題ということで、私たちが考えますには、まず一つ目、学校内及び地域の人々との人間関係において、コミュニケーション能力を高める。これで健康な心身をまず作って、人間関係を固めたらもっとよくなるだろうと。そのような課題を克服すること。

それから2番目に、環境に優しい生活習慣の実践をどういうふうにしてやっていくのか、今言いましたように、なかなか技術とかスキルが伴っていませんから、それをもう一度学び直し、見つめ直しすることが必要じゃないかと。

それから3番目に、地域に貢献できる人材育成によって環境活動の輪を広げていく。そのへんの人間関係が必要ではないかなと思います。

それから4番目、環境学習が受験勉強に有益な活動となるためのカリキュラムの開発。これは、実は私がこの学校に来る前は、東大に行くような進学校におりました。その時に環境を教科の中でとか学習の中に入れていたと言ったら、校長から言われました。「進学に邪魔になるから止めておいてください」と。これは、僕は非常に憤慨して、未だに腹の底に持っているんですが、この環境学習ということが受験勉強に有益なものになるように、これはやっぱり考えていかないといけない。教材としてどうやって作っていくのか。それから試験問題に出なければなんて、つまらんことを考えるんじゃなしに、やっぱりその知識をどのように実際に生かしていくかということが、これからの課題ではないかなというふうに思います。

どうもありがとうございました。これで終わらせていただきます。

(司会)

桑名北高等学校の皆様、ありがとうございました。

【意見交換】

(司会)

只今から意見交換の時間とさせていただきます。先ほどの取り組みなどについて、天名小学校様、桑名北高等学校様にご質問もしくはご意見をお話しされたい方がみえましたら、お手を挙げてお知らせください。

せっかくの機会ですので、どなたかご意見、ご質問等をしていただけますとありがたいです。

(質問者1)

天名の小学校の皆さん、本当に素晴らしい発表でしたね。私、関心しております。と言いますのは、私も小学校4年生の環境の授業に今年で3年目、生ごみ堆肥づくりをして、それで子どもたちが野菜を育てて、私たち会員を毎年招待して、お好み焼きパーティーとかお米パーティーをしてくれて、呼んでくれているんですが、私は、子どもの教育に何が一番大切か、私は大した勉強はしておりませんが、まずは経験することがすごい教育だと思うんですよ。体験すること。今、私が小学校の時、中学校の時に何を学んだかなというのを思い出そうとしても、勉強の内容はそんなに思い出さないんですが、その時に経験し

たことは、何十年経っても忘れないんです。だから今、この4人の子どもたちがここで発表したことは一生忘れないと思って、すごい教育だなと思います。

それで、先生とか教育委員会にお願いしたいんですが、私も3年目に入りましたが、これ、来年、4年生の先生が替わって、もうそういう環境の授業で生ごみ堆肥はそういうことに興味がありませんと言われたら、私はもう行けないですよ。先生方がどう考えて子どもたちを引っ張っていくかが一番のネックになっていると思うんです。子どもたちがどんなにしたいと言っても、先生がそれはいいことじゃないですよとか、いや、こっちの方がいいとか、いろんな意見があるとは思いますが、そこを環境のためにどんなことが一番子どもたちのためになるかを考えていただいて、来年もこのことを続けて、子どもたちがずっと続けていけるようお願いしていきたいなと思いますので、よろしく願います。以上です。

(天名小学校・澤井)

どうもありがとうございます。

うちの小学校も、この省エネ委員会は、どちらかと言うと私たちが言い出したと言うよりも、ほとんど子どもたちが言い出した活動なんです。学校自体がそういう子どもたちの思いを大事にしていこうということではいろいろやってきているんですが、実際、ここへ座らせていただいていると私もすごく環境に詳しいようですが、そんなことはなくて、子どもたちのほうが詳しいぐらいなんです。特に休み時間の活動なんかが多いものですから、そういうところで校長先生、教頭先生に実際に見ていただけることも多いですし、そういう意味では学校全体でこの子たちの思いにうまく応えながらやっていけているのかとは思っています。

エコキャップが今一番中心の活動になっていますが、こちらの活動のほうも子どもたちが見つけてきて、「私たちがやりたい」というふうに言い出して始まったことだというふうには聞いています。そういう意味では来年度以降の学校全体でそういう意識を持って、うまく続けていけるようにしてあげたいなと思っています。

どうもありがとうございました。

(司会)

ありがとうございます。

桑名北高校の伊藤先生からはいかがでしょう。

(桑名北高校・伊藤先生)

確かに、今、話がありましたように、環境教育というのは、先生が替われば本当に変わっていってしまうところがあるんですね。私も頑張って、要するに環境教育の価値、特に知的な価値というのもあると思うんですが、今、小学校、中学校、高校も含めて考えなきゃいけない道徳をこの環境教育の中でどういうふうに価値づけるか、その価値が出てきた時に、教育的価値というのがあって、教育委員会、文部省というのが動いてくれるんじゃないかなと思うんですね。

ですので、皆さん、そういうようなところを、どこがいいのかというのを考えていただいて、それを学校教育に取り入れてもらうように、皆さんに協力していただきたいと、そういうふうに考えます。

(司会)

ありがとうございました。

他に、天名小学校様、桑名北高等学校様にご意見、ご質問のある方、おみえになりますでしょうか。

(質問者2)

環境というのは、企業とか大人もすべて共通のテーマだと思うんですが、こういう環境活動を経験された中で、ポイントと言うか、広がっていくとか、成功するのにこんなことをしたら成功するというポイントを教えていただけたらなと思うんですが。せっかくですので、桑名北の生徒さんと先生と、天名小の先生の3人にお答え願いたいと思うんですが。よろしくをお願いします。

(桑名北高校・生徒)

僕は、やっぱり経験することが一番大事だし、疑問に思うことが大事だと思います。授業中でも数字を並べられるだけなので、ごみの量がこれだけあると言われても、やっぱり実際に見ないと分からないこととか結構あるので、そういうこともやっぱり実験じゃないですが、見学に行くということも授業で大事だと思います。

(天名小学校・澤井)

そうですね、ポイントと言うとなかなか難しいですが、うちでの取り組みの考え方は、何度も言わせていただきますが、子どもたちの思い、そこから出発しています。だから材料とかそこらにはいろんな知識とかを知らせてあげて、そういうところを広げてあげる、そういうところが大事なのかなと。

あとは子どもたちがそういうことをしたいと思った時に、それを実際に活動させてあげ

られるか、活動の場を作ってあげられるのか、本当に校長先生と教頭先生がよく見ていただいていますので、今の校長先生、教頭先生も、その前の校長先生、教頭先生もそうなんです。省エネ委員会はほとんど活動の場が校長室なんです。小さい学校ですので場所がないこともあるんですが、そこで本当にいつも声をかけていただきながらやっています。子どもたちも、そうやって言い出したことを自分たちがやっているんだという気持ちなので、この子たちはすごく喜んで生き生きやっているんだと思いますし、私自身もそれで教えられることがありますので、そんなことがやっぱり大事なのかなと、そんなふう感じています。

(桑名北高校・伊藤)

私は教師としては古株になってしまったんですが、今まで教育というのは縦社会だったですね。だから各教科で社会は社会、理科は理科というような感じの授業が多かったと思うんです。だけど、この「環境」という言葉が出てきたことによって、その縦社会の縦の枠がなくなって、横でものが考えられる。今言う、各小学校さんでやってみえる総合的な学習というのが出てきて、その時にどのように総合的にものを考えるかということがポイントで、小学校さんがいろんな実践をやりながら数を数えたり、算数の授業をやったり、算数の授業の中でも速く計算できる方法はどうしたらいいのかというようなことを考えさせたり、そういうような何も枠にこだわらずにやれるようなことが可能になってきたと思います。

私も環境をやるようになってよく思うようになったんですが、私、自己紹介が遅れたんですが、私の名前は伊藤三洋（イトウ ミヒロ）です。その名前から、「三洋電機、お前、社長になったら何ができるんや」と、昔よく言われました。その時には、僕は一つの案として乾電池は何回も使えるような乾電池を作るべきやという話をした時に、ずっと前の話なんですが、「乾電池は消耗するから乾電池なんや。あれが何回も使えたら、安く売って商売にならへんやんか」と、そんなことを言われて、「あ、そうか」と僕はピタッと頭を押えられてしまったことがあるんですが、今、考えようによっては、リサイクル、それからリユースと言うか、作り直しの電池を三洋電機が開発したなと思ってホッとしたら、何か三洋電機、潰れそうだし、心配しているんです。以上です。

(司会)

ありがとうございます。

他に質問、ご意見がある方はおみえになりますでしょうか。せつかくの機会ですので、

皆様、ご質問とかご意見をお持ちいただけるとありがたいんですが。

(質問者3)

天名小学校の皆さんに聞きたいんですが、皆さんが発表していただいたような活動をされて、例えば家の人、周りの大人、お父さんとかお母さんが協力してくれているようなことがあったら教えてください。

(天名小学校・児童)

僕の家はペットボトルを飲みませんが、おばあちゃんとかが他の知り合いとかに協力してもらって、それでどんどんキャップが集まってくるんです。そういうわけで、僕が学校にキャップを持っていけるということで感謝しています。

(天名小学校・児童)

私のおじいちゃんはメール便の配達をする仕事をしているんですけど、途中で会った人とかにキャップのことを知らせてくれたりしているので、すごい感謝しています。

(司会)

では次の質問に移らせていただきます。

先ほどユニー株式会社の百瀬様がお手を挙げられていましたので、お願いします。

(百瀬)

たまたまですが、鈴鹿市と桑名市ということで、ユニーのお店があります。その中で環境学習をやってみませんか。

それから、あと、高校生のお兄さんたちが小学校の皆さんと一緒に環境学習をやったことがありました。一緒にやってくれたことによって、私たち大人と子どもさんとの間はものすごく年齢の開きがあるので、いかにも親と子か、もしくは下手をするとおじいさん、おばあさんと孫たちになってしまうので、間にちょうど10代の若者が入ってくれたおかげで、随分子どもたちの気持ちがストレートに伝わったりとか、分からなかったことが分かるようになったりとか、いろいろいいことがいっぱいありました。

ですから、もしよかったら、またユニーのアピタのお店で環境学習を一緒にやってみませんか。また小学校の先生がもしよかったら、うちの店を使って環境学習をやってみてください。お店というのは意外と使い道があるものですから、買い物以外にもいろいろ使っただけであれば、場所もいっぱいありますし、商品も売っていますから、ぜひいかがでしょうか。

(桑名北高校・生徒)

ぜひ参加したいと思っています。今度は小学校の児童さんと一緒にさせてもらいます。

去年の夏はアピタ桑名店のほうで小学生と一緒に風力発電の工作を一緒にしたので、一緒にまた今度、同じ物でも作りたいと思います。

(天名小学校・児童)

僕は太陽光発電とか、光電池を使って何か工作してみたいなど。

(天名小学校・児童)

学校では、先生とかにいろいろヘドロ電池とかを作ってもらんですけど、学校に置いてあるヘドロ電池でメロディーがかかる物を作りたいと思います。

(司会)

ありがとうございました。

他に質問、ご意見のある方、おみえになるでしょうか。みえましたら手を挙げてお知らせください。

よろしいでしょうか。

では、これで意見交換を終了させていただきます。及び今回のセミナーのプログラムについてはこれですべて終了とさせていただきます。

最後に、ご講演いただきました百瀬則子様、及び天名小学校様、桑名北高等学校様に拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

会場の皆様、最後までご清聴いただき、ありがとうございました。

(終)

12/7ごみゼロ県民・事業者セミナー アンケート結果

※アンケート回答率 67.9%(参加者数81名、回答者数55名)
ご記入いただいた主な意見をご紹介します。

Q1：百瀬 則子氏 「未来の子ども達に美しい自然を残したい」

子ども達への環境教育に買い物ゲームでなく、実際のスーパー内で、体験学習をしておられることに驚きました。買い物ゲームをいつもしていますが、ユニー株式会社様の取組は、一番効果的であると思います。

率直に消費者と語り合う店の姿勢が素晴らしい

企業の方々が、色々な努力をされていることを知りました。私にできる事を積極的にしたいと思いました。

企業としての積極的な取組状況、これまでの苦労について、得るところが多かった。これからも次世代を見据えた活動を続けてください。

子どもでもわかりやすかった。特に食品のごみや、ユニー株式会社さんの(エコ・ファーストの)約束①②③が心に残りました。リサイクルってすごいですね！

ユニー株式会社の取組が良く理解できた。また、これらの取組はユニーだけでできるものではなく、多くの人々の協力のうえに成り立っていることが、よくわかった。

身近なスーパーマーケットが、企業としてどのような環境取組をしているのか、大変わかりやすい講演であった。

採算性を考慮したリサイクル方針は、持続の大きな条件だと思う。

Q2：鈴鹿市立天名小学校の取組発表

天名小学校の子どもさん達が一生懸命にエコ活動をしていることに感心しました。私たち大人も見習い良い手本を示していきたいです。大変感心しました。

自主的に環境に積極的に取り組む姿に感動しました。学校から広く意識が高まっていくことを期待しています。

子ども達の自発的な行動に深く感動しました。良き大人達の協力が引き続き継がれますように。

子ども達が進んで環境問題などを考え、体験しながら学んでいくという事がすごく感動しました。みんな楽しみながら、取り組んでいるのが伝わってきました。

楽しみながら目標に向かって活動した様子がよくわかりました。発表は非常に良かったと思います。感動しました。

子ども達が、こんなに一生懸命取り組んでいることを知り、とても感心しました。省エネ委員会を立ち上げることも、自分たちで案を出したこととてもすごいし、活動内容を進めながら、次の子たちにつないでいきたいと考えていることも素晴らしいと思います。これからはがんばってください。

Q 3 : 三重県立桑名北高等学校の取組発表

生徒が地域社会の人達と協働して、環境問題に取り組むまでに、年々に活動を深めてこられたことに学校として本物の取組であることがわかります。卒業後も立派な社会人として、環境を維持し、よりよくしていくことができると思います。もっともっと、この様なことをみんなに知らせてほしいと、思いました。

生徒が積極的に(自発的に)学校を変えていく姿が印象的。

高校生になると、このような取組に参加したいと思う人は少ないのかなと思いますが、継続して取り組まれているのは、素晴らしいことだと思います。

高校生を動かすのは、本当にご苦労があると思います。汚い環境の中では心もすさんでしまう。生徒会中心できれいにすることで、生徒達の気持ちもずいぶん変わってきたのではないかと思います。

高校において、子ども達を環境活動に引っ張りこむことは、とても大変なことだと思う。子どもたちの意識もさることながら、先生方の理解と協力が無いとできないと思う。発表いただいた先生が転任された後も続けられるように願います。

高校生が環境活動を行うのは難しいと思いますが、ぜひ今後も続けて頂きたい。今後はできれば生徒自身での報告発表が聞ける様な活動であると、もっと素晴らしいと思います。

Q 4 : 今後、どんなテーマや内容のセミナーを希望されますか？ご自由にお書きください。

日常生活の中でごみをへらすための具体的な工夫や気をつけることを教えていただける講座

自分はどうしたら、ごみを減らしながら生活していくことができるのかが、知りたいです。

具体的な取組の紹介

子どもさん達の報告がわかりやすく良かったですから、これからも続けていってほしいです。

堆肥に関するもの、それに関わっているため。

Q 5 : セミナーでお気づきの点等、その他ご意見等がございましたら、お書き下さい。

市民・行政・学校・企業の人達のバランスがとれた参加者を集められたら、幅広い意見交換ができると思う。

e-mailで参加を申し込んだ人に対しては、「申し込み受理」の返信をお願いします。

学校をまきこんだ今回の企画は大変よかったと思います。今後も続けてください。

他の場所でも本日環境のイベントがやっている。日程が重なったのは残念。

ゼロ吉のぬいぐるみ(着ぐるみ?)を県で作って、地域の活動に貸し出してはどうか？